

**2021年度 中期経営計画**

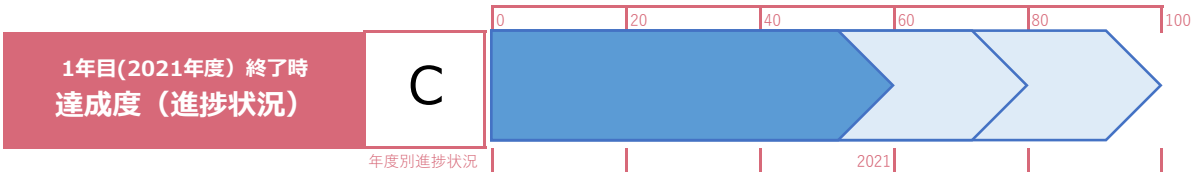
**年間評価一覧**  
**(大科目・中科目)**



学校法人 茨城キリスト教学園

- ・広報および募集活動の質を向上させ、入学定員を確保する。
- ・学園の文化・教育・研究を伝える広報戦略を強化する。

達成度(進捗状況) 【評価基準】	[S]100%達成している	[A]81%~99%達成している
	[B]61%~80%達成している	[C]41%~60%達成している
	[D]21%から40%達成している	[E]1%から21%達成している
	[-]0%、もしくは該当しない	



## 大科目：1年目終了時の実行結果・評価説明

大学	広報活動は活発に行われているが、志願者・入学者確保に繋がっていない。公式サイト再構築、志願者・入学者確保に繋がる有効な広報活動を目指し、大学ブランド構築のための施策を考える必要がある。
認定こども園	園の広報に関する新しい取組を始め、本大学教員との協議会を新たに設けた。今後は、総合学園の一部であることをさらに有効にアピールし入園者に繋げたい。
中学校 高等学校	外部での説明会や学園祭が中止となり情報発信の場は減少したが、緑豊かな学園を象徴する「森の校舎新4号館」の完成など最新の学校の様子をホームページで発信できた。
法人事務局	学園広報担当者配置の広報力強化により、マスコミ取上げ数増やホームページ記事が増えた。コロナ禍でオープンキャンパスや各種行事がオンラインとなる中、入学者確保や学園ブランド強化の一助となった。
キリスト教 センター	学園キリスト教センターとして、キアラ館のブランド価値をどこまで広報戦略に活かしているかは未知数であるが、その魅力は発信し続けていると確信する。キアラ館建立50周年を活かしたい。

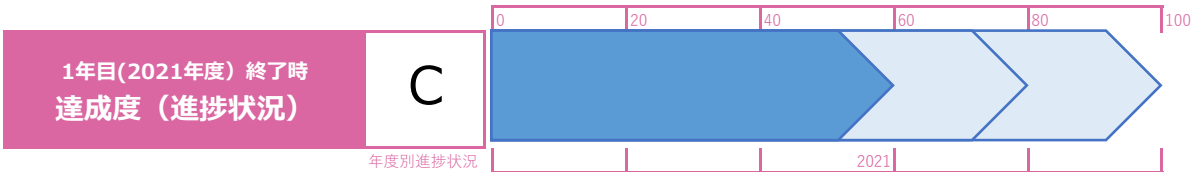
中科目：各部局マスタープラン 2021年度単年度実行結果・評価

<b>1. 学生募集に効果的な広報活動と入試制度の再構築</b>		<b>C</b>	
<b>大学</b>	志願者確保に大きな影響を及ぼす広報活動については、情報発信強化の努力をしている。学生募集にあたり、情報収集とともに本学の弱点と強みを理解したうえで効果的な入試制度を検討したい。		
<b>2. 園児の安定的確保と広報誌の強化</b>		<b>C</b>	
<b>認定こども園</b>	両園合計では定員を満たしていない。日立市の現状と今後の予想を踏まえ、適正定員数を検討し、園児の安定的確保や効果的な広報の方策を検討していきたい。		
<b>3. 学校の魅力の情報発信力強化</b>		<b>B</b>	
<b>中学校 高等学校</b>	塾主催の説明会や学園祭が中止となり学園全体の魅力を公開できる場を失ったが、ホームページやTwitterなどで学校の最新情報や中高生の日常の様子を発信することはできた。		
<b>4. 豊かな自然、歴史と伝統をふまえた革新的な学園ブランド構築</b>		<b>C</b>	
<b>大学</b>	法人とともに行った広報動画の協力は行ったが、大学における新たな取り組みを見つけ実行することが必要である。次年度は効果的な広報を実施し、大学のブランド構築が出来るよう努力したい。		
<b>認定こども園</b>	中学・高校、大学との様々な連携はあるが、今後は総合学園の一部であることをさらに園としてアピールしていきたい。		
<b>中学校 高等学校</b>	緑豊かな学園を象徴する「森の校舎新4号館」の建築から竣工の過程において、様々な観点から広くテレビや新聞の取材に取り上げられ、さらなる学園ブランドが構築できた。		
<b>法人事務局</b>	2022年3月に高校新4号館が竣工し、大学新1号館との2棟並行しての校舎建築が進み、インパクトのある新たな学園ブランド構築の一助となっている。		
<b>キリスト教 センター</b>	学園におけるブランド価値のあるキアラ館を紹介する絵ハガキセットや案内マニュアルを作成した。2024年のキアラ館建立50周年の記念パンフレットを目下、計画・準備中である。		



- ・隣人愛の精神を持ち、主体的に学び、次世代へ切り拓く人間を育成する教育を行う。
- ・多様性のある研究活動を推進し、地域・世界への貢献を果たす。

達成度(進捗状況) 【評価基準】	[S]100%達成している	[A]81%～99%達成している
	[B]61%～80%達成している	[C]41%～60%達成している
	[D]21%から40%達成している	[E]1%から21%達成している
	[ ]0%、もしくは該当しない	



## 大科目：1年目終了時の実行結果・評価説明

大学	産学連携や教育支援プロジェクト、学園内連携において、教育・研究活動の推進および学生支援体制の強化を図っている。一方、教育の質の保証を評価する体制の構築については検討段階であり、確立に至っていない。
認定こども園	キリスト教精神に基づく教育・保育が本園の特色であり、そのための研修の機会が設けられた。今後は、さらにユニークな特色を打ち出すことが課題である。
中学校 高等学校	生徒の主体的な礼拝への参加・ボランティア活動の充実・教員研修機会の提供・一貫部と高入部の発展的な融合、また、本大学の出張授業と探究活動との連携を充実させて本大学の受験希望者を増やすことが課題である。
法人事務局	コロナ禍で様々な制約が続く中、オンライン技術に代表される新たな手法を積極的に活用した教職員研修を行った。
キリスト教 センター	コロナ禍での制約はあるが、他大学にはない特色が本学のチャペルにはあるとの観点から、チャペルにおけるさらなる工夫や質の向上を目指したい。

## 中科目：各部署マスタープラン 2021年度単年度実行結果・評価

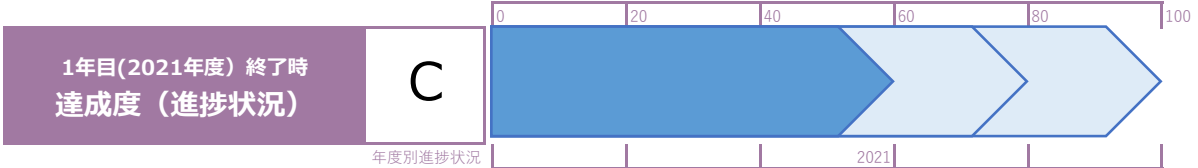
<b>1. 建学の理念に基づいた教育</b>		<b>D</b>	
大学	複数の学科・専攻の取り組みに目覚ましい成果が認められた。こうした取り組みを増やし、それらをモデルとして、最終的には全学科・専攻が「建学の理念に基づいた教育」を今一度確認・再考することが求められる。		
認定こども園	一人一人の園児を大切にする園の教育・保育が保護者から評価されており、その根幹となるキリスト教教育・保育の取組を今後も維持・強化していきたい。		
中学校 高等学校	毎朝の放送礼拝は、学園キリスト教センターの協力も得られて充実した時間となっている。ボランティア部構想を含めてさらに検討を進めたい。		
<b>2. 教育の質保証</b>		<b>C</b>	
大学	教職員や学生の誰もがその意義と方途を同時に理解できる「教学マネジメントによる質保証体制」の構築が急務であり、一刻も早い現素案の精緻化および具体化、公表、全学的共有が必要である。		
<b>3. 学生支援体制の充実</b>		<b>C</b>	
大学	関係する学内各部署の連携による支援が必要な学生への相談・援助体制が整いつつある。未着手の計画や2022年度活動予定のものについては、今後実施していく必要がある。		
<b>4. 教職員研修の充実</b>		<b>B</b>	
大学	FDおよびSDは計画通りに実行されている。SDへの教員の積極的な参加や全教員を対象とする学生相談の意義についての啓蒙講座実施について、今後取組まなければならない。		
認定こども園	新型コロナウイルス感染症による制約があったものの、個別研修はオンラインにより実施することができた。感染状況を踏まえ、全体研修の機会を再開したい。		
中学校 高等学校	教職員一人ひとりがタブレットを利用してオンラインのプログラムに参加できた。今後も積極的に参加できる機会を設けたい。		
法人事務局	コロナ禍の影響から、オンライン技術を活用しながら教職員研修の取組みを継続することができた。		

<p><b>5. 多様な研究の推進</b></p>	<p>C</p> 
<p>大学</p>	<p>科学研究費助成事業をはじめ外部研究資金獲得や、産学連携研究の実施は、大学としての評価に繋がるものであり、今後更なる進展を目指す。そのためにも適切な研究者支援および研究環境の提供は、必須である。</p>
<p><b>6. 大学と連携した特色ある保育の推進</b></p>	<p>B</p> 
<p>認定こども園</p>	<p>本大学幼児保育専攻教員との協議会を年2回実施し、本大学教員による複数の特別授業を行った。今後も連携を深めて特色ある教育・保育を実施していきたい。</p>
<p><b>7. 大学生の実習受け入れ態勢の充実</b></p>	<p>A</p> 
<p>認定こども園</p>	<p>感染予防のために様々な配慮が必要とされたが、大学生の様々な実習を予定通り実施することができた。また、実習について本学大学教員と協議する場を年2回設けた。</p>
<p><b>8. 中高一貫教育の充実と発展</b></p>	<p>C</p> 
<p>中学校 高等学校</p>	<p>カリキュラムを十分に検討した上で、高校3年次に一貫SAと特進SGの合併が実現。これを機に様々な諸問題に対応していきたい。一貫部と高入部の全ての融合は継続審議となる。</p>
<p><b>9. 法人内中大連携、高大連携の推進</b></p>	<p>B</p> 
<p>中学校 高等学校</p>	<p>茨城キリスト教大学全学科から8名の講師を招き、模擬授業ガイダンスを実施した。講義を通して大学の学科別に何を学ぶかを理解し、直接質問ができる貴重な機会を得た。</p>
<p><b>10. チャペルのあるキャンパス・ライフ</b></p>	<p>B</p> 
<p>キリスト教 センター</p>	<p>企画チャペルやオンライン・チャペルにも力を入れたが、通常の対面チャペルにも工夫を加えた。茨城キリスト教学園生活協同組合とのコラボレーションで、火曜チャペルの出席者にカレー券を配布し、好評を博した。</p>



・地域に深く根ざし、国際社会に貢献する学園のブランド力を確立する。  
 ・地域との連携活動を強化する。世界とつながり世界に学ぶ教育を深化させる。

達成度(進捗状況) 【評価基準】	[S]100%達成している	[A]81%～99%達成している
	[B]61%～80%達成している	[C]41%～60%達成している
	[D]21%から40%達成している	[E]1%から21%達成している
	[ ]0%、もしくは該当しない	



### 大科目：1年目終了時の実行結果・評価説明

大学	地域連携およびグローバル化に係る事業はコロナ禍の影響を大きく受けたが、オンラインを活用し、制約のある中でも最大限可能な取り組みを行うことができた。
認定こども園	地域連携・グローバル化は新型コロナウイルス感染症により活動が大幅に制限された。今後の課題は、状況改善に伴う諸活動再開の他、新たなグローバル化施策の実施である。
中学校 高等学校	探究活動を通して、大学等研究機関、企業人、地域の方々との交流、連携は継続できている。また、コロナ禍もありオンライン留学や国内イングリッシュキャンプなど国際交流のメニューを増やすことができた。
キリスト教 センター	諸教会のみならず、地域社会にも貢献するとの観点から、平和教育としてアンネのバラ苗木配布も継続充実させていきたい。また、クリスチャン留学生を用いた地域への発信も試みたい。

## 中科目：各部署マスタープラン 2021年度単年度実行結果・評価

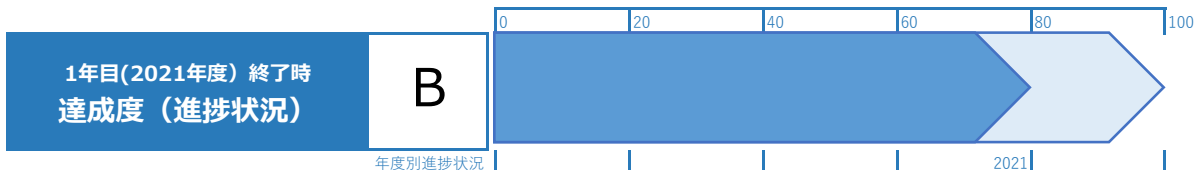
<b>1. 地域社会貢献への積極的活動実施</b>	<b>D</b>	
大学	地域で行われるイベントや講座には、感染対策やオンラインを利用し参加や講師派遣に取り組んだ。今後は、準備を進めている講座等の実施と学生の参加も含めた取り組みを促進することが必要である。	
認定こども園	新型コロナウイルス感染症のために、地域連携としての近隣小学生、中高生、シニア世代との交流は大幅に制限された。状況が改善され次第、交流を再開していきたい。	
キリスト教センター	コロナ禍ゆえに当初の計画のように出張・対面ではほぼ実施できなかったが、オンラインやTV番組を通して本学園のクリスマス音楽や讃美を地域社会に分かち合えたことは良かった。	
<b>2. グローバル化の推進</b>	<b>D</b>	
大学	新型コロナウイルス感染症の影響により、海外留学（派遣・受入）や研修を通してのグローバル化の推進にむけては困難な状況であるが、国内からのグローバル化に向けた活動については検討され、実施されている。	
認定こども園	新型コロナウイルス感染症のため教職員の海外研修は実施できなかった。海外研修再開の他、今後は園のグローバル化のためにとれる他の方策も検討していきたい。	
中学校 高等学校	イングリッシュキャンプ・オーストラリアやカナダとのオンライン交流、コロナ禍において現状可能なことを生徒に提供し海外への強い関心を継続させることができた。	
<b>3. 地域社会との連携を推進し、外部人材および資源の活用</b>	<b>B</b>	
中学校 高等学校	地域で働く方々の講演会を探究の授業で実施。また、サイエンス部を中心に茨城キリスト教大学、茨城大学、山形大学、日本製紙株式会社と連携し、研究の助言や実験の指導を受けた。	
<b>4. 海外のキリスト教系学校学生との交流</b>	<b>-</b>	
キリスト教センター	コロナ禍ゆえに、海外のキリスト教系学校との交流自体ができなかったことは残念である。今後、オンライン交流も模索したい。	





- ・キャリア教育、就職・進学支援の向上を図り、学生・生徒の夢の実現に寄与する。
- ・学生・生徒の卒業後の満足度を上げる。

達成度(進捗状況) 【評価基準】	[S]100%達成している	[A]81%～99%達成している
	[B]61%～80%達成している	[C]41%～60%達成している
	[D]21%から40%達成している	[E]1%から21%達成している
	[ ]0%、もしくは該当しない	



## 大科目：1年目終了時の実行結果・評価説明

大学	体系的なキャリア教育と各種免許や資格取得、就職支援については、成果を上げている。その一方で卒業生とのネットワーク化については、まだ工夫の余地がある。
中学校 高等学校	コロナ禍の制限の中でも実施可能なキャリア教育と探究活動について模索し、効果を上げることができた。今後の課題は「如何にして体験活動に取り組ませていくか」である。

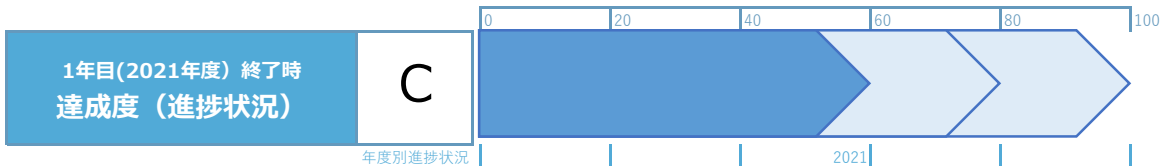
中科目：各部署マスタープラン 2021年度単年度実行結果・評価

<p><b>1. 進路支援に対する組織的な支援体制の強化</b></p>	<p>B</p>	
<p>大学</p>	<p>体形的なキャリア教育と各種免許や資格取得、採用試験の合格者数増加については成果を上げているものの、卒業生との連携については未実施のものが多い。</p>	
<p><b>2. キャリア教育の実践と充実</b></p>	<p>B</p>	
<p>中学校 高等学校</p>	<p>大手企業からの講師招聘や宿泊を伴う学校行事を通して、職業観や社会貢献について考察したり、見聞を広げながら探究活動を行ったりすることができた。</p>	
<p><b>3. 学習指導と進路指導の強化</b></p>	<p>B</p>	
<p>中学校 高等学校</p>	<p>多様化する大学入試に対して、生徒一人ひとりの進路実現のため個別指導を実施した。東京大学の教授の講演を定期的にリアルタイムで聴くことができる貴重な機会を提供できた。</p>	



- ・学生・生徒・園児数を継続的に確保する。
- ・環境変化に対応する事業と財務のバランスを図り財務基盤を強化する。



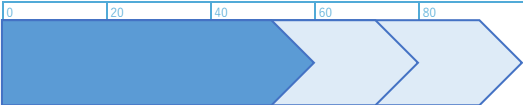
達成度(進捗状況) 【評価基準】	[S]100%達成している	[A]81%~99%達成している
	[B]61%~80%達成している	[C]41%~60%達成している
	[D]21%から40%達成している	[E]1%から21%達成している
	[-]0%、もしくは該当しない	



## 大科目：1年目終了時の実行結果・評価説明

大学	適切なガバナンス確保に努めると共に、教育研究の水準向上等のために自己点検・評価を各部署で行い、報告書を毎年発行することになった。財務基盤の元となる学生数確保に向け、検討の必要性を確認した。
認定こども園	補助金収入・寄附金収入が得られ、安全な環境づくりのための取組も行われている。今後は、園児の安定的確保に加え、新たな収入源確保も課題である。
中学校 高等学校	2022年度入試においては、入学定員数を上回る入学者の確保から財政基盤安定と強化、また、奨学費支出を抑制し他の教育研究経費への予算配分のためのよいスタートが切れた。
法人事務局	事業活動収入の7割強を占める学納金収入確保に努め、寄附金や公的補助金増のために積極的に取り組んだ。
キリスト教 センター	学園キリスト教センターは、建学の理念である「キリスト教」主義をいい意味で充実させることを通して、学園の財政基盤の構築に寄与したい。

## 中科目：各部局マスタープラン 2021年度単年度実行結果・評価

<b>1. 組織ガバナンスの強化</b>		<b>B</b>		100
大学	「茨城キリスト教大学ガバナンス・コード」に沿ったガバナンス確保に努めると共に、自己点検・評価を徹底する為にこれまで7年毎にまとめていた報告書を毎年発行することを決定した。			
<b>2. 予算配分の適正化</b>		<b>C</b>		100
大学	学園全体の財政状況に合わせ、各学部学科、大学院研究科や各部署の予算申請に対しヒアリングを行い、適正に予算を配分した。			
認定こども園	両園合計では定員を満たしていない。園の魅力をより効果的にアピールし、園児の安定的確保に尽力していきたい。			
中学校 高等学校	学業特待生の奨学金制度を見直した。体育特待生による入学者が増加したので、バランスの取れた奨学金支出には至らなかった。			
法人事務局	目標とする入学者数は、大学と認定こども園において厳しい状況となった。			
キリスト教 センター	学園キリスト教センターは、少額の予算で最大限の効果を生み出す努力をしている。			
<b>3. 収入の多様化と経費節減による財政基盤強化</b>		<b>C</b>		100
大学	文部科学省補助金の獲得に加え、収入の多様化（リカレント教育等）に努めた。			
認定こども園	県からの補助金や園への寄附金を受領した。今後も補助金申請や寄附募集を行う一方、他の方法も含め収入源の多様化を検討していきたい。			
中学校 高等学校	中学高校とも入学定員を上回る入学者を確保できたことから、財政基盤の安定、強化のための下地を作ることができた。			
法人事務局	収入の多様化を図るため、寄附金募集活動に積極的に取り組んだ。また、各部局における公的補助金獲得に向けた取り組みを強化した。			
キリスト教 センター	ペーパーレス化など、可能な範囲で経費節減に努めている。			

<b>4. 中長期修繕計画の策定と必要資金の確保</b>	<b>C</b>		100
<b>法人事務局</b>	法人管財課において中長期施設修繕計画案の作成を進めた。必要資金の試算および確保策は継続検討していく。		
<b>5. 安心と安全に基づく環境整備</b>	<b>C</b>		100
<b>大学</b>	新型コロナウイルス感染防止のため、各学部学科、大学院研究科および各部署の授業外諸活動について、申請（年間総件数105件）を出してもらい、個々に実施する際の注意点を実施者に伝えた。		
<b>認定こども園</b>	各種避難訓練を定期的実施した。今後も、様々な場において安心・安全な環境を整えるために尽力していきたい。		
<b>中学校 高等学校</b>	防災避難訓練を行い、日頃からの防災への意識啓発に繋げることができた。高校は3号館に防犯カメラ設置、中学校はダイヤルロック式の生徒用ロッカーの設置などが今後の課題である。		
<b>法人事務局</b>	コロナ感染防止対策を継続するとともに、危機管理における情報共有のための意識啓発に取り組んだ。		
<b>キリスト教 センター</b>	学園キャンパスの随所に、いのちの尊さと平和の大切さを訴える「アンネのバラ」を植えているが、さらに、増やしていきたい。		

# 学校法人 茨城キリスト教学園

## ■ 茨城キリスト教大学大学院

文学研究科 英語英米文学専攻  
生活科学研究科 食物健康科学専攻  
心理学専攻  
看護学研究科 看護学専攻

## ■ 茨城キリスト教大学

文学部 文化交流学科  
現代英語学科  
児童教育学科 (児童教育専攻・幼児保育専攻)  
生活科学部 心理福祉学科  
食物健康科学科  
看護学部 看護学科  
経営学部 経営学科

## ■ 茨城キリスト教学園高等学校

全日制普通科

## ■ 茨城キリスト教学園中学校

完全中高一貫6年制教育

## ■ 茨城キリスト教大学附属認定こども園

せいじ園・みらい園

## 第15期中期経営計画 2021年4月1日開始

Peace Truth LOVE  茨城キリスト教学園

〒319-1295 茨城県日立市大みか町6-11-1

TEL: 0294-52-3215(代)

FAX: 0294-52-3493

<https://www.icc.ac.jp/edu/>

